



# 感謝状贈呈式開催

## 能登半島地震義援金の寄付を受けて

兵庫県消防協会が令和六年能登半島地震兵庫義援金募集委員会へ寄付したことを受けて、令和六年六月五日に兵庫県災害対策センターにて感謝状の贈呈式が行われました。



左から唐津部長、池田防災監、安満会長、中嶋消防保安課長、小野山次長

田防災監から安満会長に感謝状が手渡されました。

兵庫県消防協会では、今年元日に発生した能登半島地震をうけて、各消防団から集まった約四一四万円を義援金として五月二二日に令和六年能登半島地震兵庫義援金募集委員会に寄付しました。義援金は今回の地震で被害にあわれた方達への支

援に役立てられます。

この場をお借りして、義援金集めにご協力いただいた関係者の皆様から感謝を申し上げます。皆様の献身的な努力があったからこそ、被災地の復興に貢献することができました。ご厚意に深く感謝し、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。



池田防災監から感謝状を受け取る安満会長

# 消防団フェア

## in 三田



消防団員による迫力満点の梯子演技

令和六年五月二二日(日)、イオン三田ウッディタウン店(兵庫県三田市)にて、消防団フェアを開催しました。

消防団フェア開催の経緯として、消防団員の皆さんが地域でどのような役割を担っているか、また地域に密着しており親しみやすい存在であるということ、特に若い世代が多いニュータウンエリアの方々に知ってもらいたいという思いから開催に至りました。

開催当日は雨予報ではありましたが、なんとか天気も持ち、消防団員約一〇〇名が主となりイベントを盛り上げました。イベントはバッテリー



梯子演技を控え集中する消防団員

カー体験、救急教室、水消火器体験、防火衣体験の各ブースを回ってスタンプを集めるスタンプラリー形式で行い、とても盛り上がりました。スタンプラリーブース以外にも消防団車両乗車体験や三田市のマスコットキャラクターであるキッピー・ハッピーとの触れ合いや写真撮影も子どもたちに人気でした。

また、兵庫県からは地震体験車、小型オフロード消防車も参加してもらい、列が途絶えないほどの人気でした。特に地震体験車は普段体験できない震度七の揺れを感じることで災害へ備えておきたいと考えるようになってきたという方が多く、防災意識の向上に繋がりました。

イベントブースの他に北摂中央幼稚園の皆さんには、音楽に合わせて可愛くて元気いっぱいな演技を披露してい



水消火器体験の様子



ただ、会場全体が観客の手拍子でいっぱいになりました。また、三田市消防団第二分団第三分団による梯子演技では、迫力のある技が決まるたびに大きな拍手や歓声で会場が包まれていました。

今回の消防団フェアでは、消防団という存在を知ってもらうことができただけでなく、イベントを通して地域の方と触れ合う良い機会となり、今後の消防団活動のモチベーション向上にもなっています。「実際に消防団について理解できた」、「消防団員さんが優しく接してくれて嬉しかった」という声が届いています。

このイベントをきっかけに消防団の必要性や大切さを理解してもらい、今後若い世代の方や子どもたちが消防団で地域のために活躍したいと思えるような活動を続けていきたいと考えています。



# 令和五年度兵庫県女性消防団員活性化研修会 開催!

## 公益財団法人兵庫県消防協会

この度の女性消防団員活性化研修会は、令和六年二月一日(日)、兵庫県立広域防災センター兵庫県消防学校の講堂において実施されました。

当日は、播磨町消防団による防災啓発劇の実演を含む活動事例の発表と、兵庫県立大学 減災復興政策研究科 阪本真由美教授の講演が行われました。

毎月一回発行の「けすぞう新聞」の紹介、第二五回全国女性消防操法大会の出席報告、防災啓発劇の中から「防災クッキング講座」の実演を行っていただきました。事例発表後の質疑応答では「けすぞう新聞」の広報活動ならびに、女性消防団員の確保などについて、活発な意見交換が行われました。

兵庫県立大学 減災復興政策研究科 阪本教授の講演では、「女性のパワーを生かし地域の災害に備える」と題し、今年一月一日に発生しました「令和六年能登半島地震」での自らの活動を通して得た写真を交えて講演いただきました。

被災地までのアクセスが困難であった状況に始まり、避難所の状況、超高齢化社会での災害対応や、劣悪な避難生活から一・五次、二次と広域避難していく過程、女性の悩みや子育て世代の課題も含めた数々の課題や取り組みについて講演され、「女性だからできることと、女性でないとできないこともたくさんあると思います。女性の防災のリーダーとして皆さんの地域の避難生活を変えていけるように、災害に強い地域に変えていけるように、取り組んでいただければと思います」と講演を結ばれました。

今回の研修会へご参加いただきました女性消防団員の皆さまが、学んだ内容をそれぞれの所属消防団にフィードバックしていただき、今後の活動に活かしていただければ幸いです。



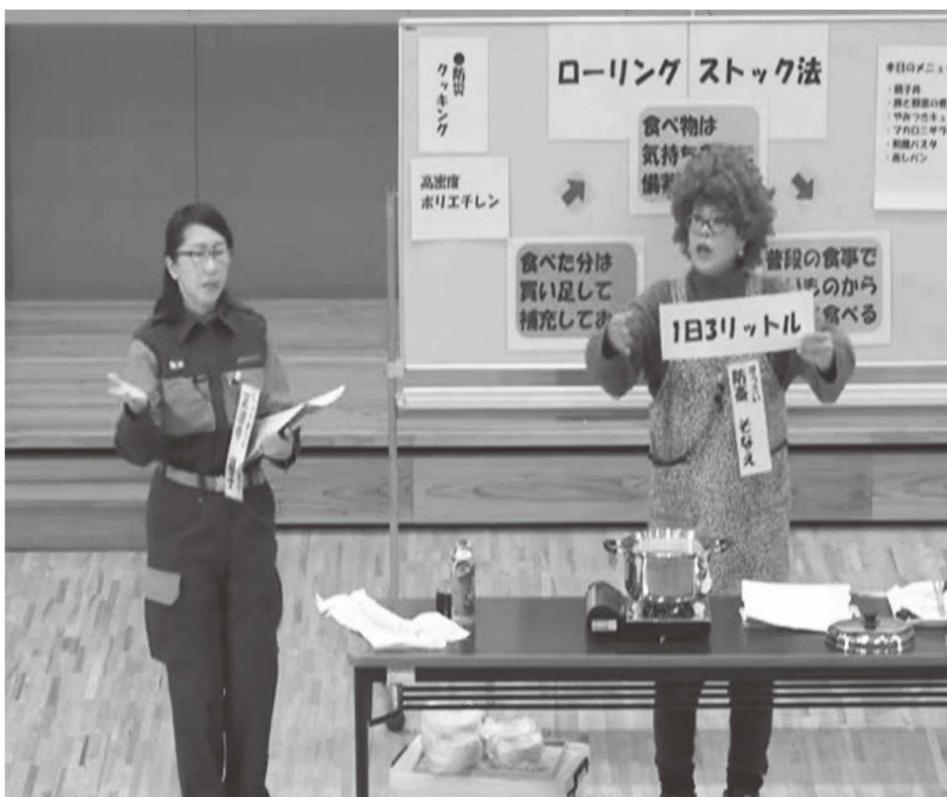
兵庫県立大学 阪本教授の講演



けすぞう新聞の紹介



第25回全国女性消防操法大会の出場報告



防災啓発劇「防災クッキング講座」

# 令和六年度 兵庫県功労者表彰式挙行



受賞者の集合写真

令和六年五月三十一日(金)、兵庫県公館において、令和六年兵庫県功労者表彰式が挙行されました。

表彰は、二二の功労分野にわたり、二二一名の方が受賞されました。

そのうち、消防功労では消防関係者六名が受賞され、消防功労の受賞者を代表し、豊岡市竹野消防団の大野団長が齋藤知事から表彰状を授与されました。

なお、受賞者の方々は次のとおりです。(敬称略)

### ○消防功労

豊岡市竹野消防団	大野 伸治
淡路市消防団	曾谷 哲也
前宝塚市消防団	辰家 宏弥
前朝来市消防団	平野 光啓
猪名川町消防団	前岡 隆顕
前宝塚市消防本部	山中 毅



代表受領 大野団長

## 令和6年度 第89期 初任教育入校式挙行!! 145名が消防士として訓練の第一歩を踏み出す!

(公財) 兵庫県消防協会



初任教育生 宣言



入校式の様子



岡 県立広域防災センター長兼消防学校長の式辞

令和六年四月三日(水)、兵庫県立広域防災センター消防学校にて第八九期初任教育入校式が挙行されました。入校式では、各消防長及び関係者の方々の参列を仰ぎ、決意も新たに消防士としての第一歩を踏み出すこととなりました。

消防士として採用された新規職員は、六ヶ月におよぶ全寮制のもと、消防士として必要な体力・気力・知識・技術を習得するため、厳しい訓練を受けなければなりません。入校式後には早速、体力測定が実施され、教育生達は精一杯取り組みました。

これから六ヶ月間の厳しい訓練で、頼もしい教官方に導いていただきながら、同期の皆さんと共に乗り越え、知識・技術を習得し、逞しい体力と精神力を兼ね備えた「消防士」として九月の卒業式を迎えていただきたいと思います。



# わが町の団長さん

## 「安全・安心なまちづくりを目指して」



小野市消防団長 田中 孝和

は、消防活動の原点であり、その規律と動作が迅速・安全な現場活動へ繋がるもの」であると再認識いたしました。今後も「自分たちの郷土は自分たちで守る」という郷土愛の精神のもと、小野市消防団一丸となり、安全・安心なまちづくりに邁進していきます。

## 「地域に愛される新団長誕生！」



神戸市東灘消防団長 引野 雅昭

わが町神戸市東灘区は、市内九区の中で人口が二番目に多い、二一万人を超える住宅地です。引野団長は分団長を歴任後令和六年四月に神戸市東灘消防団長に就任されました。

引野団長は入団以来、災害活動、訓練、各種の行事などには必ず出席され、精力的に取り組まれています。引野団長と一緒にいると不思議なことに気がきました。いつも人に囲まれています。なぜ？この人になぜ人が集まるのか？？と思ひ、観察してみました。すると、まず人に対して自分自身を正直に接するところが一番であることがわかりました。そして、感情が豊かで、喜怒哀楽がはっきりしていて、且つそれを前面に出し、「共に喜び、厳しく怒り、人前でも哀しみ、誰よりも楽しむ。誰よりも大き

な声で楽しむ。」これがチームワークの基本になっているように感じます。年齢の上下関係なく交際範囲が広く、人が集ってくる要因がここにあることを本人は気が付いてないと思います。このような人柄である引野団長は、東灘区にあるだんじり祭りにも参加されていて、中心的存在として地域住民の方からも厚く信頼されています。今後も東灘消防団は、普段の生活の中でも常に消防団活動の優先的に考えておられる引野団長の指揮のもと一丸となり、「安全・安心なまちづくり」に貢献したいと思ひます。

家島町消防団は、姫路港から南西一八キロメートルの瀬戸内海に位置する家島諸島を管轄しています。家島諸島は、島民の多くが暮らす家島本島と坊勢島、海水浴場がある男鹿島、県立自然体験センターや砕石場がある西島のほか無人島も含めて大小四〇余りの島々で構成されています。中でも、宗實団長の出身地でもある家島本島は、急傾斜地にも多数の民家が建ち並ぶ景観の美しさから「日本のアマalf」と呼ばれたり、呼ばれなかつたりしています。そのような美しい景観を有する家島諸島も、一度火災となると大変不自由な状況を生じさせます。常備消防が消防

隊・消防車両を有しておらず、消防団のみで消火活動を行い、完全鎮火まで達成しなければなりません。急傾斜地に多数の民家が立ち並ぶ状況は、一度火災が発生すれば、常に延焼危険が高い状態にあります。家島諸島の有人島は、総じて道が狭く、消防団車両が通行できる道路が少ない上に、急傾斜地の上部に行くには階段しかない場所もあります。また、無人島で火災が発生すれば、上陸することも困難であり、鎮火することも大きな苦勞があります。他にも、海上での行方不明者の捜索等さまざまな災害に家島町消防団は対応しています。宗實団長は、昭和五十一年、父親が消防団に入っていたことをきっかけに、家島町消防団真浦分団に入団されました。以降四七年間、昼夜を問わずさまざまな消防団活動に尽力され、本年四月に家島町消防団長に就任されました。「不自由を常とおもへば不足なし」宗實団長の好きな武将、徳川家康公の遺訓にもある通り、さまざまな災害に常に備え、万全の対応をする。宗實団長は、常に誠実で、そして根気よく、地域の安全・安心を守るため活動されておられます。



姫路市家島町消防団長 宗實 稔

## 「どうなる団長？」

「地域防災力強化のための消防団活動」



養父市消防団長 井上 浩一

養父市は県北部の中央、標高一、五一〇メートルの県下

最高峰の水ノ山の麓に位置します。市内にはハチ高原や日本滝百選に選定された天滝があり、夏は登山、冬はスキー・スノーボードで賑わう、自然豊かな地域です。養父市消防団は平成一六年に旧四町の組織を引き継ぐ形で結団し、現在は四方面隊、四六分団、定数一、三六〇人の組織で活動しています。井上団長は昭和五九年に旧関宮町消防団に入団。平成十六年四月の養父市誕生と同時に発足した養父市消防団で、三九才の若さで副団長に抜擢されました。以降は団長や方面隊長らを献身的に支えてこられ、

令和六年四月には養父市消防団長に就任されました。平時の団長は明るく誰とも分け隔てなく笑顔で接する優しい人柄で、「まちの大家さん」として工務店を営み、住宅などの建築に忙しい毎日を送る傍ら、近年は米作りに精を出され、自ら大型農機具を購入して自分の田んぼ以外にも地域の農地を耕作するなど、遊休農地の減少対策にも貢献されています。また、長年の趣味であるバイクツーリングも謳歌されています。そんな団長ですが、いざ有事となると顔つきが一変、いち早く現場へ駆け付け、迅速かつ的確な判断により団員を指揮されます。また、消防団員の担い手不足が深刻な状況に対し、団員報酬の引き上げや活動の負担軽減など処遇改善にも積極的に取り組み、時代に合った消防団運営を先頭に立って進めてこられました。一段と進む過疎化と高齢化により、地域の消防力低下が懸念される中、養父市消防団は井上団長の力強いリーダーシップのもとで一致団結し、「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い信念で、住民の安全安心を守るために日夜災害に立ち向かっています。

# がんばってます、女性消防団員

## 『私達だから出来る、気が付くことを』

### 赤穂市消防団

「江戸の夜風をふるわせて響くは山鹿流儀の陣太鼓」赤穂市は、元禄一五年、火消し装束を身に纏い、吉良上野介を討ち取った「忠臣蔵のふるさと」として知られています。そんな歴史ある赤穂市には六二〇名の消防団員が地域防災を担っており、そのうち一二名が私たち女性消防団員です。屈強で地域を愛する男性団員に囲まれる中、「私達だから出来ること」、「私達だからこそ気が付くこと」を探し、日々消防団活動に励んでいます。主な活動として、一人暮らしの高齢者世帯を対象とした家庭防火診断や救急救命講習などを行っています。その中で特に力を入れ行っている家庭防火診断では、私達の視点から家庭に潜む危険性を発見し、改善策やアドバイスをしています。防火診断で何う家はどこも清掃が行き届いていますが、大きな家具の



土のう積み訓練の様子

裏はどうしても埃が溜まることが多く、トラッキング現象など家庭に潜む火災危険に対するアドバイスなどを、雑談を交えながら分かりやすく説明できるよう心がけています。近年は新しい団員の確保が中々できていませんでしたが、昨年女子大学生二名が入団してくれたことで、より一層活気が溢れてきています。今後も女性部一致団結して消防団活動に取り組みでいきたいと思ひます。